

25歳のロッシェニの肖像（ピエートロ・フォーロに基づく銅版画）

（水谷彰良コレクションより）

意外に少ない、若きロッシェニの肖像

18歳で職業オペラ作曲家となり、23歳で《セビーリヤの理髪師》（1816年）を初演するなど早熟な才能を現したロッシェニだが、若き日の肖像画は思いのほか少ない。その証拠に、筆者の知るかぎり1817年まで（つまりは25歳以前）に描かれたロッシェニの肖像は2種しか確認できない（未確定の油彩を除く）。その最初が、1814年ミラーノでガッロ・ガッリーナ（Gallo Gallina, 1796-1874）の作成したリトグラフ（litografia）である。印刷されたそれはリコルディ社によるもので、表情は22歳と思えぬほど初々しく、子供のようにも見えるが、広い額と薄毛に後年のロッシェニの特色が表れている（右図）。



ガッロ・ガッリーナによる
22歳のロッシェニ（部分）

二つ目は、ロッシェニの友人ピエートロ・フォーロ（Pietro Folo, 1790-1867）の原画に基づく銅版画（acquaforte）である。これは現存するロッシェニ書簡から1817年（25歳）に描かれたと認定され、1823年11月にロンドンのピノック社の制作した銅版画によって流布した。筆者所蔵のそれはロンドンの月刊音楽新聞『ハーモニコン（*The Harmonicon, A Journal of Music*）』1823年合本に挿入されたもので、下部に「GIOACCHINO ROSSINI / Published by Pinnock Nov. 1823」とある。プレート痕からオリジナルのフォーマットはフォルリオ版と思われるが、『ハーモニコン』の製本に合わせて余白が裁断され、27×21.3 cmとなっている。



前記1814年（22歳）の肖像は表情に幼さをとどめるが、3年後のこちらはナポリの王立劇場音楽監督としての自信と余裕が見て取れる。

25歳のロッシェニの肖像
（Published by Pinnock
Nov. 1823. 筆者所蔵）

[Collezione privata di Akira Mizutani – Tokyo]

（水谷彰良。2014年1月作成）